

シーズ発掘 ・ ニーズ把握

シーズ情報の発信

マップ集でマッチングの活性化

キーワード：シーズ集・マップ・見える化

本事例の関係者

岩手大学
地域連携推進センター共同研究員
いわて産学連携推進協議会（リエゾンI）

文部科学省産学官連携
コーディネーター

岩手大学
岩手県立大学
一関工業高等専門学校
東北農業研究センター
農業研究センター
林業技術センター
水産技術センター
工業技術センター
生物工学研究センター

いわて産学官連携推進協議会
（リエゾンI（アイ））
シーズ集掲載機関

シーズマップ集
「リエゾンIシーズ集
2008～Outlines」に
よる効果

適任教員検索時間
50%短縮

技術相談件数
10% UP

苦手意識を解消して産学官連携をより身近に

【要約】

コーディネーターは、膨大なシーズの中から必要とするシーズ群を分かり易く表示する方法を検討・考案し、「マップ集」として完成させた。マップ集により、学内の他制度産学官連携人材のシーズの理解が深まり、この産学官連携人材で構成している組織自体の活動の改善、活性化に繋がってきている。

【きっかけ】

本学では、コーディネーター以外に、自治体から大学に派遣されている職員が共同研究員として産学官連携活動に従事している。更に金融機関、県内研究機関といわて産学連携推進協議会（リエゾンI〔アイ〕）を組織し、活動を推進している。彼らのほとんどは文系出身で、シーズを詳細に理解することが難しく、苦手意識を持っている。そこで、もっとシーズを身近に感じるようにできないか、コーディネーターが検討をはじめた。

【段取り】

●シーズ検索、関連シーズの対比ができるように

左記のようにシーズ集には本学のほかに、多数の県内研究機関のシーズが掲載されている。各研究機関の産学官連携活動への関心が高まり、年々掲載するシーズが増加している。その結果、求めるシーズの検索やそのシーズの関連シーズを比較検討するのに時間をとられている。この課題解決に目標を置いた。

【ポイント】

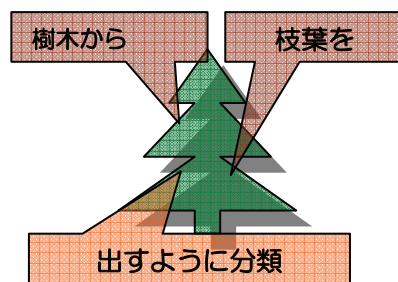
●シーズ集は従来型とマップ集の二本立てで

今回は、個々のシーズを集積する従来型のシーズ集と、シーズの包括的把握が可能な新たなマップ集の二本立てで進めることにした。コーディネーターは、パテントマップを応用してシーズの全体表示を試みた。シーズの代表図、研究機関毎に色分けして掲載することで、シーズのマップ化を進めた（参照：下図右）。

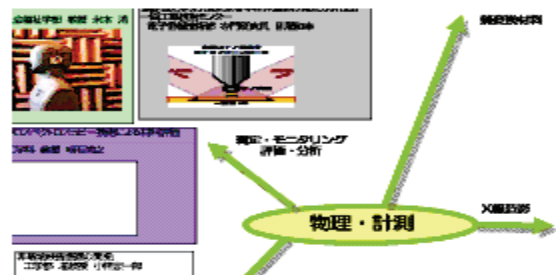
【成果・結果や活動後の変化】

●マップ集を活用して産学官連携をより身近に

コーディネーターはマップ集完成後、勉強会にて活用法を説明した。マップ集は一度に包括的にシーズが把握できるとともに、関連するシーズの比較もできる。また、最適なシーズ選定のツールとなり、マッチングの機会、質の向上の効果がある。更に、県内の全研究機関シーズをマップ集にまとめているため、特に金融機関担当者はマップ集を片手に顧客へ話題提供が可能となり、産学官連携をより身近なものにしている。



パテントマップの樹木法で
シーズをマップ化



コアの分類(物理・計測) からシーズを細分類
代表図の掲載と機関を色別してマップ化

成功の事例

文系の産学官連携人材の取組姿勢が変わった

●金融機関担当者のシーズへの姿勢が変わった

『大学、研究機関のシーズ＝過度に難解なもの』との図式が、特に金融機関担当者に潜在しており、顧客先で技術的課題を聞き出すことを躊躇してしまう趣があった。マップ集によりシーズがビジュアル化され、シーズへの接触の仕方が変わったため、上記図式を少しでも解消できた。また、マップ集は岩手県内研究機関のシーズが表示してあるため、パネルとして展示すれば対外的なアピールにも繋がる。実際、マップ集をパネルにして常時展示し、訪問者が閲覧できるようにしている機関もある。

●共同研究員もマップ集を活用

自治体からの共同研究員は、派遣元地域の企業ニーズと、シーズのマッチングが主業務となり、マッチングのスキルを研究し、派遣元地域に貢献するのも大学に常駐している理由の一つである。彼らは先ずマップ集からシーズを比較し、詳細を従来型のシーズ集で確認し、シーズ選定を行っている。コーディネーターが勉強会で説明した活用法が定着しており、適任教員の検索時間を短縮したほか、よりニーズに適合したシーズの提供が可能になった。

シーズ発掘 ・ ニーズ把握



失敗の事例

集約した意見でステップアップが必要

●様々な意見が聞こえてきた

マップ集により、シーズが点から面で見ることができ、その効果が波及している。発行物としてのマップ集の改善、マップ集の更なる有効活用についてなど様々な意見が出てきている。より具体的には、シーズをもっと広く知ってもらう機会提供、シーズ集の発行時期、形式、伝達方法の改良、再考など様々な角度からの提案が寄せられている。今後の課題として対応する。

●担当者の意見を活かして意識改革を

金融機関担当者から、マップ集を通じた顧客への提案がより容易になったとの意見がある。この意見を活かすべく、特に文系出身の産学官連携人材の意識改革を行い、一層の浸透を図る必要がある。例えばマップ集に相談シートを付け、シーズをより身近なものに感じてもらうため、いつでもどこでもシートの回収が可能なシステムの提供も一つの方法と考える。叩き台として提案し、より発展させた形とさせたい。

成功と失敗の 分かれ道

マップ集を作っても利用されなければ意味がない。如何に見やすく、日々の業務に密着させるかが活用への一歩

産学官連携の新たな展開に向けた提言

マッチングの日常化から活性化へ

●与える側の次はシーズを受ける側へ展開

リエゾンIの活動項目として、シーズ集の発行、ニーズとシーズのマッチングイベントがあり、その結果マッチングが日常化してきた。マップ集は、シーズを与える側でより身近になってきたため、今後は日常化したマッチングを更に活性化させる有効なツールであると考え、今後はシーズを受ける側からの観点を持ち、展開を図る。

●マップ集を含めたリエゾンIの活動向上へ

リエゾンIの活動自体もマッチングの活性化に向け、これまでの活動内容を見直している。研究機関、金融機関とがもっと情報共有して、活動を進めるべきではないか、そのための提案をメンバーがより積極的に出せるような環境を整えるべきではないか等が主な意見である。今回のマップ集はシーズの見える化に留まらず、上記の通りリエゾンIの活動にも波及してきている。好循環しつつある、リエゾンI自体の活動とともに更に発展させていく。

☆コーディネーターの一言

マップ集により文系出身者のシーズへの苦手意識解消に寄与した。今後は担当者個人から協議会の活動へ更に波及させながら、マッチングの活性化へ繋げていく。